

富嶽三十六景神奈川沖浪裏 葛飾北斎
通所リハビリ利用者様作品



『年頭所感』

誠和藤枝病院院長 浅川 建史

日本中が例外なく貧しかった昭和三十年頃、私たち三人兄弟のごはんに、母親が、毎朝一個分しかない『とき卵』を、絶妙に三分分して掛けてくれるのを、二人の兄たちと、ちやぶ台を囲んで、固唾を呑んで見つめた、幼い日の記憶があります。車はおろかテレビや冷蔵庫など、何もない、夏は暑く、冬はやたら寒い日本家屋で、ただ、家族が肩寄せ合ってつましく生きた時代でした。しかし、毎日が新鮮で、心はとても豊かで充実していた時代だったのです。私の心の『原点』の風景です。

その後、経済の高度成長とバブルの崩壊を経験した私たち団塊の世代も、次々と還暦を迎えています。生存率1%以下の戦地から奇跡の生還を果たし、戦後、地方公務員として私たち家族を守ってくれた、優し

藤枝市中ノ合²⁶⁻¹ ^{かい}八洲^{しま}会
医療法人社団 **誠和藤枝病院**
〈054〉638—3111(代)

診療時間
月～金 午前 9:00～午後 5:00
土曜日 午前 9:00～正午 12:00

いだけが取り柄の父も、昨年鬼籍の人になりました。

アメリカでは初めての黒人大統領が誕生して、核軍縮を唱え、日本では、五十五年体制を覆して政権交代を果たした党首は、『コンクリートから人間へ』と施政の変革を訴えています。相変わらず経済は低迷していますが、世界中が一敗地にまみれたおかげで、好景気で浮かれていたときには気付かなかった『声なき者の声』が、再び聞こえ始めたのかもしれない。実際、平凡な私たち庶民も、挫折を味わって初めての人の痛みが分かることが多いものです。今一度、自分はどこから生まれ、どこへ行くのか、何のために生きているのか、どう生きるべきか、立ち止まって考えることは、新年の初頭に当たって無駄なことではないでしょう。

今年も、私たち誠和藤枝病院の職員は、大勢のお年寄りに寄り添い、それぞれの立場で、人の為に働くということはどういうことか考え、自分は何がどこまでできるのかを模索してゆくことになると思います。このような毎日の生活が、私たち自身がよく生きるための『新たな発見』につながることを、私は信じてやみません。

平成二十二年度の抱負

3A看護部主任 和田貞子

患者様が入院される殆どの理由は、御家族様の介護困難です。私たちは、入院した患者様を御家族様にかわって介護する立場にあります。家に優るものはないのですが、病棟全体でこれまで以上に患者様と向き合い、過ごしやすい入院生活を送ってもらうには、個人々々に何が必要か考えることが大事だと思います。

世の中は変動の時期で、介護の問題も山積みです。しかし現場にいる私たちは、目の前の患者様を看護師・介護職員として専門の立場でしっかりみて、計画を立て実行していく事が大切だと思います。又、今年も患者様、職員の事故には十分に注意して、事故が起こる前の早めの対策を心がけていきます。そして、まず職員が健康でなければ何もできません。健康第一に努めていきたいと思えます。



秋の遠足 藤の瀬会館にて

新年の抱負

2B介護主任 八木妙子

この仕事について十年がたちます。ひとつの区切りとして初心に帰って気持ちを新たにしていこうと思えました。

ある和尚さんが

「最近の人は感謝する事を忘れてる。やってもらう事が当たり前になってきているがそうではなく、やってあげてはじめてやってもらう事がありがたいと思えるようになる。」と言っていました。



通所リハビリ いも掘り 『大きいねえ!』

聞いた時、本当にそうだなと思えました。言われてみてはじめて気が付く事が多くなりました。ですからこの一年、気持ちを入れかえ、人に感謝して過ごせたらなと思っています。

新年の目標

理学療法士 望月 緑

明けましておめでとーございませす。

早いもので、私が理学療法士の職について四度目のお正月を迎えました。一年目の頃とは異なり、

臨床の場にある程度慣れてきた今、私が一年間の目標に掲げていることは、

- 一、疾患をみるのではなく、患者様をみて理学療法を行う。
- 二、自分の限界を決めつけない。の二点です。

一については一年目からの目標で、私達医療職は疾患や検査結果など色々な情報を耳にし、勝手に患者様像を作ってしまう事がありますが、実際に向き合うのは患者様個人です。訓練内容だけではなく、接し方も患者様に合ったものを選び、対応できる力をつけたいと思えます。



葉梨小学校との交流会 『折り紙』

二は最近特に思う事です。今までは『出来る事』だけを選んで行動し、新しい事や困難な事を避けていたように感じます。しかし、今年は『やりたい事』を一つでも多く見つけ、自分の殻を破り、色々な事に挑戦していききたいと思いません。

これら二点を目標にし、理学療法士としても人間としても成長できる一年間にしていけるよう頑張りたいです。

私の祖母

医療事務 山下恵美子

「誰か来て！おばあさんが大変！！」

母のただならぬ声で飛び起きたのは大学四年の五月、連休を利用して、就職活動の為に実家に帰郷していた休日の早朝の事でした。

三十代の頃からリウマチを患い、私が物心つく頃には手も足も不自由になっていった祖母は、一日中家の中だけで生活するようになっていました。しかしおばあちゃん子だった私にとっては、いつ学校から帰って来ても、家で待っていて

くれ、いろんな話をし、聞いてくれる嬉しい存在でした。

そんな祖母は、救急車で市立病院に運ばれたのち、意識が戻らぬまま誠和藤枝病院に転院し、約一年二ヶ月後の平成十二年一月十八日の朝、この世を去りました。

あれから十年、私がこの病院で働いているのも、祖母が導いてくれたような思いがします。祖母の想いに恥じぬよう、これからも頑張りたいです。



作業療法訓練 『かご作り』

通所リハビリテーションの一日

通所リハビリテーション 介護職員 中野 佐樹子

「おはようございます。誠和です。」と大きく元気な声と笑顔でご利用者様のお迎えにあがる事で一日がスタートします。通所に到着後はバイタルチェックと朝の挨拶をし、午前に入浴、個別リハビリ、個人作業（塗り絵など）を行います。午後には集団リハビリ体操、レクリエーションを行い、おやつのは帰りの歌と挨拶をし、ご利用者様をご自宅にお送りします。

その後、スタッフ全員で



葉梨公民館のふれあい祭り『作品』

今日のご利用者様の様子を話し合い、介護日誌に記入していきます。この介護日誌はご利用者様の変化や様子を書き留める物で、ケアプラン作成などに必要となります。また、時にはご家族様に対して開示報告される事もあります。それらの話し合いが終わると、次の日のご利用者様の座席決め、レクリエーションの準備を行います。

現在、毎日四十名弱の方々が来所され、曜日によって利用される方々は様々です。私達はそれぞれ利用者一人一人に声を掛け、笑顔で会話を楽しみ、心や状態の変化を見落とさない様、これからも配慮していきたいと思えます。

医療ソーシャルワーカーとは？

医療ソーシャルワーカー 大畑 真亮

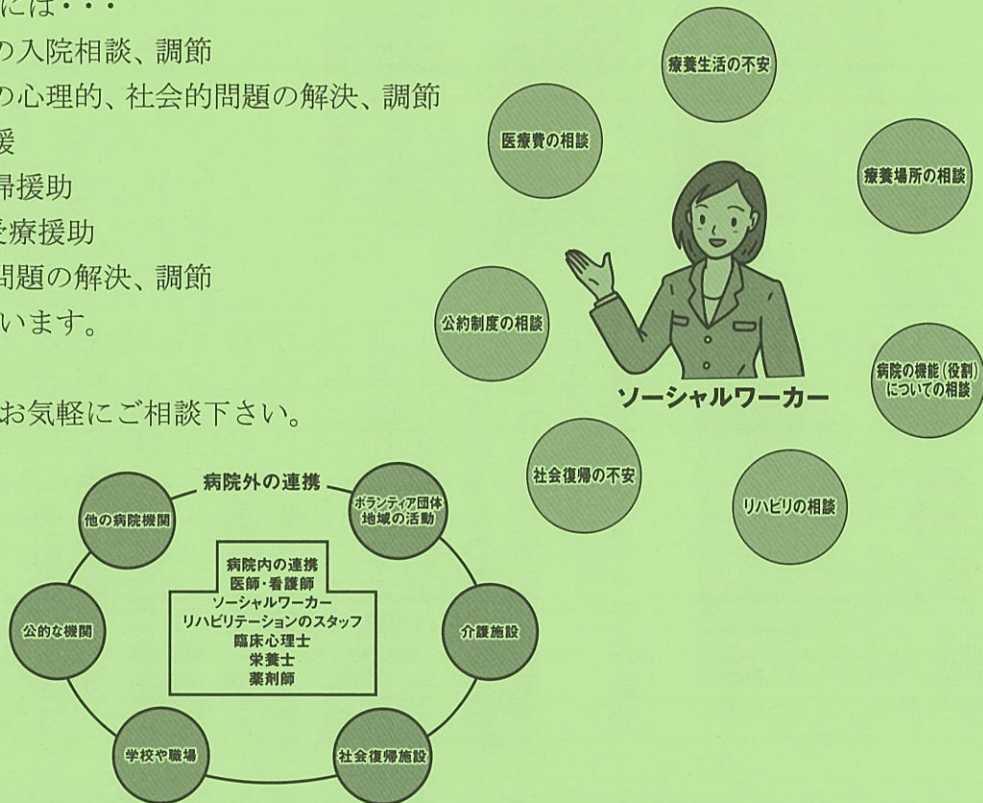
医療ソーシャルワーカーとは、『患者様・御家族様と病院や社会福祉制度とを繋ぐ橋渡し役』です。

当院では、患者様・御家族様の抱えている問題に対して、医療ソーシャルワーカーが医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・作業療法士・理学療法士・言語聴覚士と連携をとり、患者様・御家族様と一緒に考え、解決のお手伝いをさせていただきます。

☆具体的には・・・

- ・当院への入院相談、調節
- ・療養中の心理的、社会的問題の解決、調節
- ・退院支援
- ・社会復帰援助
- ・受診、受療援助
- ・経済的問題の解決、調節を行っています。

いつでもお気軽にご相談下さい。



職員募集

- ◎正・准看護師
- ◎介護職員
- ◎介護支援専門員

詳しいお問い合わせは (054)638-3111 担当 事務長まで

新年明けましておめでとうございます。院内報『せいわ』も第三十号を迎えることができました。常日頃より、院内報の編集にご協力頂きありがとうございます。これからもより良い紙面にしていきたいと考えておりますので、皆様のご意見・ご鞭撻を宜しくお願ひします。

編集後記